

科目名	生物分類学Ⅰ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	菅野宏文
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	日本蛇族学術研究所研究員、伊豆アンディランド学芸員、現在は執筆活動を行う。						
授業の学習 内容	近年大きく変わりつつある生物分類の体制において、最新の知識を身につける。五界説の動物界または3ドメインセオリーのオピストコンタ界動物亜界の門・綱・目のレベルまでの分類体制を講義において行う。 最終的には業界人として職に就く上での必要最小限の知識を身につける。						
到達目標	高校時に履修すべき項目はもちろんのこと、専門学校生として一歩進んだ知識を身につけ、動物園・水族館・企業などの採用試験に対応できる学力を培う。また、生物分類技能検定3級において、動物における設問はすべて解答できる学力を身につける。						
評価方法と基準	出席率・試験成績により判断する。 出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、上記の点数を筆記試験に加点する。筆記試験評価 GPA〔A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0(不合格)となる。〕 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	4/17	講義	生物の分類：分類の概念 分類の必要性を理解し、述べる事ができる。	分類の必要性を考える。	
2	4/24	講義	現在の分類法：それぞれの分類法の 概念の違いを学び、述べる事ができる。	身近な生物を数種仲間分け。	
3	5/8	講義	リンネ式分類学：分類に使用される階級 リンネ式分類の仕組みを理解し、説明できる。	動物を1種選び門～属までを調べる。	
4	5/15	講義	種概念と定義：種とは何かを把握し、述べる事が できる。	雑種が種ではない理由を調べる。	
5	5/22	講義	国際動物命名規約：学名について その原則を理解し、説明できる。	動物を1種選び学名を調べる。	
6	6/5	講義	生物分類の大綱：現在有力視されている 五界説について学び、述べる事ができる。	生物を5つの界に分けた理由を調べる。	
7	6/12	講義・演習	3ドメインセオリー：最新の分類の動向を学び、述 べる事ができる。	五界説の矛盾を調べる。	
8	6/19	講義・演習	外来生物法について学び、説明できる。	特定外来生物を1種選び詳しく調べる。	
9	6/26	講義・演習	ワシントン条約について学び、説明できる。	飼育室の動 物で条約に	
10	7/10	講義・演習	種の保存法・文化財保護法について学び、説明でき る。	天然記念物を1種選び詳しく調べる。	
11	7/17	講義・演習	動物の愛護及び管理に関する法律。 特定動物について述べる事ができる。	学校で飼育している特定動物を1種選び詳しく調べ る。	
12	8/28	講義・演習	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法 律について学び、説明できる。	身近な狩猟対象鳥獣を一種選び、現況を詳しく調べ る。	
13	7/3	講義	相模湖カヌー実習(自然)、久慈(恐竜)	実習の準備	
14	9/4	試験	期末試験・ペーパーテスト実施 試験に解答する事ができる。	試験に対する準備を行う	
15	9/11	講義	試験解答および全試験解答および全過程の総括 講義の全体像を理解する事ができる。過程の総括	理解がよくできていない項目を確認する。	
準備学習 時間外学習			各自ノートを読み返しをし、復習に努める。講義の予習、下調べ学習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 (参考書) 滋慶教育科学研究所監修(2006)「動物の健康管理」(株式会社滋慶教育事業部)、菅野宏文著：「ミドリガメ・ゼニガメの医・食・住」、「リクガメの医・食・住」、「ニオイガメ・ドロガメの医・食・住」、(社)日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック・動物園編」Ⅲ					

科目名	生物分類学Ⅰ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	菅野宏文
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	日本蛇族学術研究所研究員、伊豆アンディランド学芸員、現在は執筆活動を行う。						
授業の学習 内容	近年大きく変わりつつある生物分類の体制において、最新の知識を身につける。五界説の動物界または3ドメインセオリーのオピストコンタ界動物亜界の門・綱・目のレベルまでの分類体制を講義において行う。 最終的には業界人として職に就く上での必要最小限の知識を身につける。						
到達目標	高校時に履修すべき項目はもちろんのこと、専門学校生として一歩進んだ知識を身につけ、動物園・水族館・企業などの採用試験に対応できる学力を培うまた、生物分類技能検定3級において、動物における設問はすべて解答できる学力を身につける。普通に勉強すれば4級、一生懸命勉強すれば3級合格します。						
評価方法と基準	出席率・試験成績により判断する。 出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、上記の点数を筆記試験に加点する。筆記試験評価 GPA[A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0(不合格)となる。] 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1	10/2	講義	検定3・4級解説、哺乳類Ⅰ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	次週までに	出題された問題を解答する。	答え合わせは授業当日に行う。
2	10/9	講義	検定3・4級解説、哺乳類Ⅱ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
3	10/16	講義	検定3・4級解説、鳥類Ⅰ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
4	10/23	講義	検定3・4級解説、鳥類Ⅱ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
5	10/30	講義	検定3・4級解説、爬虫類(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
6	11/6	講義	検定3・4級解説、両生類(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
7	11/13	講義・演習	検定3・4級解説、魚類Ⅰ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
8	11/20	講義・演習	検定3・4級解説、魚類Ⅱ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
9	11/27	講義・演習	検定3・4級解説、昆虫類Ⅱ(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
10	12/4	講義・演習	検定3・4級解説、その他の無脊椎動物(分類・形態・生態)を理解し、解答できる。	〃	〃	〃
11	12/11	講義・演習	検定3・4級解説、物全般Ⅰ 細胞・生命の起源について理解し、述べる事ができる。	〃	〃	〃
12	12/18	試験	期末試験・ペーパーテスト実施 試験に解答する事ができる。	試験に対する準備を行う	試験に対する準備を行う	
13	1/15	講義	試験解答および全過程の総括 講義の全体像を理解する事ができる。	理解がよくできていない項目を確認する。	理解がよくできていない項目を確認する。	
14	1/22	講義	検定3・4級解説、生物全般Ⅱ 生物学の歴史・進化論について述べる事ができる。	次週までに	出題された問題を解答する。	答え合わせは授業当日に行う。
15	1/29	講義	検定3級同等の模擬試験：同レベルのテストに解答できる理解力を身につける	予め配布した問題を講義までに提出する。	解答は当日行う。	
準備学習 時間外学習			各自ノートを読み返しをし、復習に努める。講義の予習、下調べ学習を行う。			
【使用教科書・教材・参考書】(教科書)一般財団法人自然環境センター(2020):生物分類技能検定3・4級解説集 (参考書)内田亨著(1965):「動物系統分類の基礎」(株式会社 北隆館) (社)日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック動物園編」Ⅲ						

科目名	爬虫両生類学Ⅰ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	肉食爬虫類研究所所属。爬虫両生類・恐竜の調査、教育普及活動に従事。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひととおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類とは何か	授業の内容について復習(レポート)
2		講義	爬虫両生類の定義と特徴	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	飼育の基本(ケージ・保温・床材等)	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	爬虫両生類の野外観察法(初級編)	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	カメ類総論と水生種の分類・生態・飼育	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	陸生ガメとハコガメの分類・生態・飼育	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	トカゲ類総論と地上生種の分類～飼育	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	イグアナ等樹上生種の分類・生態・飼育	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	カメレオン・ヤモリ類の分類・生態・飼育	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	オオトカゲ類の分類・生態・飼育	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	ワニ類とムカシトカゲの進化と生態	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認	授業初め、前回の内容について議論
14		試験		
15		振り返り	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。				
夏休みに向けてのレポート提出				

科目名	爬虫両生類学Ⅱ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	富田京一
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	肉食爬虫類研究所所属。爬虫両生類・恐竜の調査、教育普及活動に従事。						
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。						
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひととおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。						
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類とは何か(復習)	一年時の内容について復習(レポート)
2		講義	飼育の基本(ケージ・保温・衛生面等)	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	水生ガメの高度な飼育法や保全を学ぶ	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	爬虫両生類の野外観察法(上級編)	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	ウミガメの保全活動と基本的な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	陸生ガメの高度な飼育法や保全を学ぶ	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	爬虫両生類の餌学(栄養素と飼育法)	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	トカゲ総論と地上生種の高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	樹上生トカゲの分類と高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	カメレオン・ヤモリ類の高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	オオトカゲ・ドクトカゲの高度な飼育法	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	ワニ類とムカシトカゲの進化と生態	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	これまで習得した知識や技術の確認	授業初め、前回の内容について議論
14		試験		
15		振り返り	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。				

科目名	コンピューター演習Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	伊東玲美
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	専門学校卒業後、イラスト、デザイン関係のフリーランスとして活動中						
授業の学習 内容	Adobeソフト『Photoshop』、『Illustrator』の基礎を学び技術を身につける。 前期でPhotoshop、後期でIllustratorを集中的に学ぶ。						
到達目標	1年を通してPhotoshop、Illustratorの基礎をマスターし、 自身のPRに活かせるようさまざまなデザインを作れるようになる。						
評価方法と基準	・課題提出&完成度60% ・授業態度10% ・出席率30% ※試験は行いません。課題提出必須						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	講義と演習	自己紹介・名刺デザインのラフを制作 Photoshopの基礎【ファイル～基本操作(ツール)】	デザインの仕方 Photoshopの基本知識や裏技を知ろう！
2			Photoshop基礎【レイヤー～図形ツール】	デザインする上で必須なレイヤーについての理解や いろんな図形を作ってみよう！
3	4/22	講義と演習	Photoshop基礎【画像編集】	画像の加工を使いこなそう！
4			Photoshop基礎【画像切り抜き】	いろんな画像を切り抜いて切り抜きマスターになろう！
5	5/13	講義と演習	学んだことの復習 デザインについてアドバイス	今まで学んだことを活かして 個性的な名刺をデザインしよう！
6				
7	7/1	講義と演習	Illustratorの基礎【ツール～基本操作】	これさえ使えば楽しくなる！な操作を覚えよう！
8			Illustratorの基礎【基本操作②～図形】	さらに基本操作をマスターして いろんな図形を作ってみよう！
9	7/8	講義と演習	Illustratorの基礎【文字編集】	名刺だけでなくポスターやチラシ作りにも使える！
10			Illustratorの基礎【整列～配置作業】	PhotoshopでのデータをIllustratorに配置する方法や 整列機能をマスターしよう！
11	8/26	講義と演習	ラフチェック・名刺制作開始	デザインの最終確認 ブラッシュアップ
12			名刺制作	名刺作業の最終段階！ 新たにIllustratorで学んだことも活かし
13	9/2	講義と演習		
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
SDカードもしくはUSBメモリー(持ってる人のみ)/課題データ/授業内配布プリント/筆記用具/メモ帳				

科目名	コンピューター演習Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	伊東玲美
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	専門学校卒業後、イラスト、デザイン関係のフリーランスとして活動中						
授業の学習 内容	Adobeソフト『Photoshop』、『Illustrator』の基礎を学び技術を身につける。 前期でPhotoshop、後期でIllustratorを集中的に学ぶ。						
到達目標	1年を通してPhotoshop、Illustratorの基礎をマスターし、 自身のPRに活かせるようさまざまなデザインを作れるようになる。						
評価方法と基準	・課題提出&完成度60% ・授業態度10% ・出席率30% ※試験は行いません。課題提出必須						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	パンフレットのラフ制作	パンフレットにする施設を決め、 デザインを自分なりに考えよう！
2			ラフチェック 応用ツール紹介【クリッピングマスク】	ラフチェック後 応用ツールについて知ることができる。
3		講義と演習	Photoshop/ Illustratorを使った表紙制作	画像加工や切り抜きなどを使って 表紙をデザインする。応用ツールについて学ぶ。
4				
5		講義と演習	パンフレット内の文章配置	整列などを活用して住所や料金などの 基本情報を入れデザインをする。
6			講義と演習	アクセスマップ制作
7				
8				
9		講義と演習	フロアマップ制作	PhotoshopかIllustratorを使って フロアマップの作り方を学ぶ。
10				
11		講義と演習		これまでのデザインチェック 残りのパンフレットデザイン制作
12				
13		講義と演習	アクセスマップ制作	
14				
15		評価		授業外提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
SDカードもしくはUSBメモリー(持ってる人のみ)/課題データ/授業内配布プリント/筆記用具/メモ帳				

科目名	環境保全Ⅱ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	佐山 義則
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	公益財団法人日本生態系協会						
授業の学習 内容	基本的に覚える授業ではなく、考える授業とする。 毎回、授業時間の半分は、この授業の前後に行われる(た)実習に関係のあるテーマを出題し、それについて事前調べあるいはその場で各自のスマホで情報収集し、発表、議論する。これにより幅の広い視野、情報の正誤の判断能力を養う。						
到達目標	環境保全についての基礎的知識からいま話題になっている項目についての知識を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記テストにおける理解力チェックと、授業中の意見・発表・討論等による評価 筆記テスト60%、授業中の評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月10日	座学	昆虫について考える	
2		座学	林業と環境について知る	
3	10月24日	座学	河川と環境について知る	
4		座学		
5	10月31日	座学	海・水産業と環境について知る	
6		座学		
7	11月18日	実習	森の墓苑のビオトープ池補修と 昆虫の家製作	
8		実習		
9		実習		
10	11月28日	座学	都市のみどりについて (公園・街路樹・企業緑地)	
11		座学	企業と環境について	
12	12月5日	座学	個人の生活と環境について	
13		座学	観光と環境保全について	
14	12月19日	座学	環境教育について	
15		座学	筆記試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	環境保全 I	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐山義則
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	公益財団法人日本生態系協会						
授業の学習 内容	基本的に覚える授業ではなく、考える授業とする。 毎回、授業時間の半分は、この授業の前後にインターネットで流れてきた環境保全に関係のある話題を提示し、それについて事前調べあるいはその場で各自のスマホで情報収集し、発表、議論する。これにより幅の広い視野、情報の正誤の判断能力を養う。						
到達目標	環境保全についての基礎的知識からいま話題になっている項目についての知識を学ぶ。 特に産業ごとの自然環境との関係について理解を深める						
評価方法と基準	筆記テストにおける理解力チェックと、授業中の意見・発表・討論等による評価 筆記テスト60%、授業中の評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	座学	「クビアカツヤカミギリ調査」と 「トウキョウサンショウウオ保全」	卒業研究と連動して進める
2		座学	環境問題とは何かを考える	
3	5月16日	座学	生物多様性について知る	
4		座学	自然を守る世界の動き・日本の動き	
5	5月30日	座学	ナショナルトラスト活動について知る	
6	6月3日	実習	トウキョウサンショウウオ放流と鳥の巣箱製 作@森の墓苑	
7		実習		
8		実習		
9	6月20日	座学	農業・林業と環境について考える	
10		座学		
11	7月11日	座学	有害鳥獣対策について考える	
12		座学	昆虫について考える	
13	8月29日	座学	水産業と環境について考える	
14		座学		
15	9月5日	テスト		9/24虫聴き会@森の墓苑
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	生物復元テクニックⅡ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	伊藤
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	東京藝術大学大学院美術解剖学博士後期課程修了。博士(美術)。恐竜関係書籍の日本語版監修等多数。						
授業の学習 内容	「生物のかたちをよく観察し、そのかたちの意味を理解し、効果を考えたうえで表現する。」 「観察」「理解」「効果」「表現」をキーワードに、生物の復元テクニックを学ぶ。 [生物復元テクニックⅠ]では、描写力等の巧拙(こうせつ)ではなく、かたちを見る力を養成する。 生物のバランスやデフォルメ等の理解のため、折紙等の作成実習も行う。						
到達目標	観察する力をつける。 生物の体の構造の意味が理解できるようになる。 効果を考えたうえで的確な表現ができるようになる。 生物のバランスを理解したうえで、化石等の欠損部位を補完できるようになる。 最終試験において作品評価60点以上を取得し、単位の認定を受ける。						
評価方法と基準	講義中の提出物70%、定期試験30% 筆記試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提出し、合格することでDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	恐竜研究のあけぼの	最初に研究された恐竜について調べておく。
2	10月3日	講義	ローマ数字	ローマ数字について調べておく。
3	10月10日	講義	骨学用語 -魚類からヒトまで-	骨学用語について調べておく。
4	10月17日	講義	歯 -魚類、爬虫類-	魚類と爬虫類の歯について調べておく。
5	10月24日	講義	顎 -咀嚼筋と顎関節-	咀嚼筋と顎関節について調べておく。
6	10月31日	講義	脊椎動物の耳	脊椎動物の耳について調べておく。
7	11月7日	講義	ドラゴンの化石	ドラコレクス Dracorex について調べておく。
8	11月21日	講義・実習	爬虫類を描く	イグアナについて調べておく。
9	11月28日	講義	化石の発掘現場 - SUEの発掘現場の紹介 -	サウスダコタ州の恐竜の発掘現場を調べておく。
10	12月5日	ビデオ講義	『化石ハンター スーの冒険』	T.rex 「SUE」について調べておく。
11	12月12日	講義・実習	恐竜頭蓋を描く ①	T.rex の頭蓋を構成する骨について調べておく。
12	12月19日	試験	レポート試験	これまでの講義内容をまとめておく。
13	1月16日	振り返り	後期講義の振り返り	授業内容と後期の試験課題を思い出し、最も印象に残ったことを洗い出しておく。
14	1月23日	講義・実習	恐竜頭蓋を描く②	色相・明度・彩度について再確認しておく。
15	1月30日	講義・実習	恐竜頭蓋を描く③	恐竜の頭部の骨格と体表の関係について考えておく。
準備学習 時間外学習			事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促し、事後学習を通じてより深く学びます。図書室を有効活用してください。	
【使用教科書・教材・参考書】教科書は無し。必要に応じてプリントを配布します。				
【注意事項】必ずノートを取りながら受講してください。				

科目名	生物復元テクニックⅢ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	伊藤
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	東京藝術大学大学院美術解剖学博士後期課程修了。博士(美術)。恐竜関係書籍の日本語版監修等多数。						
授業の学習 内容	[生物復元テクニックⅠ]で学んだ生物の復元テクニックをより実践的に活用するためのノウハウを学ぶ。 [生物復元テクニックⅡ]では、描写力および表現力等をレベルアップさせるためのより高度なテクニックを学ぶ。 生物のバランスやデフォルメ等を実際に表現するため、より高度な折紙等の作成実習も行う。						
到達目標	より正確・精密に観察できる力がつく。 効果を考えたうえでデフォルメや強調等の的確な表現ができるようになる。 生物のバランスを理解したうえで、化石等の欠損部位を補完し全体像が表現できるようになる。						
評価方法と基準	講義中の提出物70%、定期試験30% 作品評価:GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 試験資格は学生便覧学則に沿うものとする。 出席率66.7%以上に試験受験後の単位認定を行う。 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提出し、合格することでDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・実習	生物の+D12:K26かたちを決定する要素	フィボナッチ数列について調べておく。
2	4月25日	講義	生きた化石 -腕足類-	腕足類について調べておく。
3	5月9日	講義・実習	生物イノベーション -生物・化石を使った商品の開発-	生物・化石を使った商品を考えておく。
4	5月16日	講義	最新ツーソンミネラルショーの紹介	国内のミネラルショーについて調べておく。
5	5月23日	ビデオ講義	【動画視聴】 『THE 世界遺産-アルバータ州立恐竜公園-』	準備学習不要
6	5月30日	講義	オウムガイ	オウムガイについて調べておく。
7	6月13日	講義・実習	シーラカンス	シーラカンスについて調べておく。
8	6月20日	講義	翼竜おりがみ	翼竜のおりがみ作品について作例を調べておく。
9	6月27日	講義	始祖鳥 -12個の化石と裏話-	始祖鳥について調べておく。
10	7月4日	(講義なし)	(学外実習のため講義なし)	(講義なし)
11	7月11日	講義	ドードー、骨質歯鳥類	骨室歯鳥類について調べておく。
12	7月18日	講義・実習	指と趾 -指節骨、趾節骨を描く-	恐竜の手と足の骨について調べておく。
13	8月29日	講義・実習	動物頭蓋スケッチ	描きたい動物頭蓋を選んでおく。
14	9月5日	試験	レポート試験	これまでの講義内容をまとめておく。
15	9月12日	講義	前期講義のふりかえり	授業内容と前期の試験課題を思い出し、最も印象に残ったことを洗い出しておく。
準備学習 時間外学習			事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促し、事後学習を通してより深く学びます。図書室を有効活用してください。	
【使用教科書・教材・参考書】教科書は無し。必要に応じてプリントを配布します。				
【注意事項】必ずノートを取りながら受講してください。				

科目名	生物復元テクニックⅣ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	伊藤
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・実習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	東京藝術大学大学院美術解剖学博士課程修了。博士(美術)。恐竜関係書籍の日本語版監修等多数。						
授業の学習 内容	[生物復元テクニックⅠ]で学んだ生物の復元テクニックをより実践的に活用するためのノウハウを学ぶ。 [生物復元テクニックⅡ]では、描写力および表現力等をレベルアップさせるためのより高度なテクニックを学ぶ。 生物のバランスやデフォルメ等を実際に表現するため、より高度な折紙等の作成実習も行う。						
到達目標	より正確・精密に観察できる力をつける。 効果を考えたうえでデフォルメや強調等の的確な表現ができるようになる。 生物のバランスを理解したうえで、化石等の欠損部位を補完し全体像が表現できるようになる。 最終試験において作品評価60点以上を取得し、単位の認定を受ける。						
評価方法と基準	講義中の提出物70%、定期試験30% 筆記試験評価: GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提出し、合格することでDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義・実習	「恐竜」「爬虫類」のシノニム	「恐竜」「爬虫類」の古い言い方について調べておく。
2	10月3日	講義・実習	T. rexの頭蓋を4色で表現する①	明度・彩度・色相について調べておく。
3	10月10日	講義・実習	T. rexの頭蓋を4色で表現する②	光の方向と陰影の関係について調べておく。
4	10月17日	講義・実習	T. rexの頭蓋を4色で表現する③	表現と効果の関係について調べておく。
5	10月24日	講義・実習	化石の同定	ヘルクリーク層の化石について調べておく。
6	10月31日	講義	骨格標本作製法	骨格標本作製法について調べておく。
7	11月7日	講義	妖怪の造形 -「一つ目」と「三つ目」-	「一つ目」と「三つ目」の画像を集めておく。
8	11月21日	講義・実習	粘土による彫塑①	油粘土の特性について調べておく。
9	11月28日	講義・実習	粘土による彫塑②	「観察・理解・表現・効果」について考えておく。
10	12月5日	ビデオ講義	『DINOSAUR13』	映画『DINOSAUR13』について調べておく。
11	12月12日	講義・実習	粘土による彫塑③	「客観性と主観性」について考えておく。
12	12月19日	試験	レポート試験	これまでの講義内容をまとめておく。
13	1月16日	振り返り	後期講義の振り返り	授業内容と前期の試験課題を思い出し、最も印象に残ったことを洗い出しておく。
14	1月23日	講義・実習	粘土による彫塑④	芸術作品と古生物復元の違いについて考えておく。
15	1月30日	講義・実習	粘土による生体復元	自分の好きな古生物の立体復元を探しておく。
準備学習 時間外学習			事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促し、事後学習を通じてより深く学びます。図書室を有効活用してください。	
【使用教科書・教材・参考書】教科書は無し。必要に応じてプリントを配布します。				
【注意事項】必ずノートを取りながら受講してください。				

科目名	生物復元テクニックⅠ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	伊藤
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義および実習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	東京藝術大学大学院美術解剖学博士後期課程修了。博士(美術)。恐竜関係書籍の日本語版監修等多数。						
授業の学習 内容	「生物のかたちをよく観察し、そのかたちの意味を理解し、効果を考えたうえで表現する。」 「観察」「理解」「効果」「表現」をキーワードに、生物の復元テクニックを学ぶ。 [生物復元テクニックⅠ]では、描写力等の巧拙(こうせつ)ではなく、かたちを見る力を養成する。 生物のバランスやデフォルメ等の理解のため、折紙等の作成実習も行う。						
到達目標	観察する力がつく。 生物の体の構造の意味が理解できるようになる。 効果を考えたうえでの確かな表現ができるようになる。 生物のバランスを理解したうえで、化石等の欠損部位を補完できるようになる。						
評価方法と基準	講義中の提出物70%、定期試験30% 作品評価:GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 試験資格は学生便覧学則に沿うものとする。 出席率66.7%以上に試験受験後の単位認定を行う。 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提出し、合格することでDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	生物はバランスで見ろ！	タチオウ型恐竜とタチオウの骨格等を探しておく。
2	4月25日	講義・実習	恐竜を描く①	三点透視図について調べておく。
3	5月9日	講義・実習	デッサン用スケールの作製	「デスケル」について調べておく。
4	5月16日	講義	ツーソンミネラルショー	「Tucson Gem Show」について調べておく。
5	5月23日	ビデオ講義	【動画視聴】 『リアルが一番おもしろい』	以下の人物について調べておく。 滝川クリステル、茂木健一郎、荒俣弘(敬称)
6	5月30日	講義	爬虫類の頭蓋	爬虫類の分類と系統について調べておく。
7	6月13日	講義・実習	古生物おりがみ	古生物おりがみの作例を調べておく。
8	6月20日	講義・実習	恐竜の頭蓋を復元する	発見された化石部分と頭蓋全体の関係を調べておく。
9	6月27日	講義・実習	ドラゴンの化石	ドラコレクスについて調べておく。
10	7月4日	(講義なし)	(学外実習のため講義なし)	(講義なし)
11	7月11日	講義・実習	始祖鳥	始祖鳥について調べておく。
12	7月18日	講義・実習	鳥類を描く	いろいろな鳥類の体形を比較しておく。
13	8月29日	講義・実習	哺乳類を描く①	哺乳類の体形の基本的構造を調べておく。
14	9月5日	試験	レポート試験	これまでの講義内容をまとめておく。
15	9月12日	講義	前期講義のふりかえり	授業内容と前期の試験課題を思い出し、最も印象に残ったことを洗い出しておく。
準備学習 時間外学習			事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促し、事後学習を通じてより深く学びます。図書室を有効活用してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 教科書は無し。必要に応じてプリントを配布します。				
【注意事項】 必ずノートを取りながら受講してください。				

科目名	コミュニケーションスキルアップⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松井 かおり
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	研修講師として専門学校・企業・自治体にて活動。認定カウンセラー。若者支援活動の経験も持つ。						
授業の学習 内容	この授業は、学生生活はもちろん、社会に出てからも必ず必要となるコミュニケーションのスキルを習得・ブラッシュアップする授業です。基礎コミュニケーション、ビジネスコミュニケーションのスキルアップを目指し、「クラスの仲間との関係づくり」から「実習先、社会人に向け必要な振る舞い」まで、様々なコミュニケーションのトレーニングをしていく授業です。また、知識としての理解だけでなく、体験ワークを通して自ら考え、社会で実践できるレベルを目指していきます。						
到達目標	・他者と自分自身の価値観の違いを理解し、お互いを尊重した人間関係を構築することができる。 ・自分自身の特徴を知り、様々な場面で自己表現ができる。 ・仕事のチームワークとはどんなものかを理解し、チームの目的や役割を意識してチームに参加できる。 ・社会で人間関係を円滑に進めるための様々なコツを理解し、体験を通して身につけることができる。						
評価方法と基準	【評価方法】 1) ワークブック提出・授業態度＝40% 2) 定期試験＝60% 【評価基準】 1) 定期試験は、ワークブックの記入・提出と筆記または実技試験での評価とする。 2) 授業態度は、参加姿勢や定期提出物の有無、内容を含む。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	4月18日	講義、演習	【オリエンテーション】自己スキルチェックで自己分析、課題発見ができる ※アイスブ	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
2	4月25日	講義、演習	【価値観の理解】多様な価値観に触れ、共通点・相違点に気づくことができる(教科書第	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
3	5月9日	講義、演習	【価値観の理解】それぞれの持つ価値観について、仲間と共有できる(教科書 第2章	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
4	5月16日	講義、演習	【自己理解力・他者理解力】人から見た自分のイメージを知り、仲間のイメージを考える	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
5	5月23日	講義、演習	【チームワークスキル】グループの存在目的と役割を理解し、主体的に参加できる(教科	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
6	5月30日	講義、演習	【コミュニケーション基礎】会話の成り立ちを理解し、基本スキルを習得できる(教科書	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
7	6月13日	講義、演習	【コミュニケーション基礎】「伝える」「聴く」のポイントやコツを理解して実践できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
8	6月20日	講義、演習	【ビジネスコミュニケーション】仕事で必要な伝え方・聞き方を理解できる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
9	6月27日	講義、演習	【ビジネスコミュニケーション】適切な自己表現の方法理解し、を習得できる(教科書第	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
10	7月4日	講義、演習	【自己理解】自身の強みについて考え、明確にできる	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
11	7月11日	講義、演習	【コミュニケーション基礎】温かい言葉かけの大切さを理解し、実践できる(教科書第3	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
12	7月18日	講義、演習	【チームワークスキル】グループで課題解決に向けて協力できる(教科書 第2章Ⅱ)	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
13	8月29日	講義、演習	【検定講義①】CSU検定に向け、各章のポイントを理解できる(教科書第1.2章)	・授業終了時に立てた行動計画を実践する	
14	9月5日	試験	筆記試験		
15	9月12日	講義、演習	【振り返り】前期試験結果と自己チェックを振り返り、後期に向け目標を設定することがで	・後期目標設定	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	一般教養Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松山智彦
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	金融系システムエンジニア、ITコンサルタント、ネット専門証券会社広報						
授業の学習 内容	・社会人として必要とされる教養を身につける ・卒業後に仕事場で、様々なバックグラウンドを持つ人々と交流することを想定し、広い分野の知識を増やし、円滑なコミュニケーションが取れるようにする ・中学・高校で学んだ基本的な知識の復習、各種試験の演習を通して、就職試験の一般教養テストの対策を行う ・講義形式は授業の前半は時事、後半はテキストにある問題を解く ・前期はテキスト前半部分(インプット)中心、後期は後半部分(アウトプット)中心に実施						
到達目標	・時事ニュース等に関して、全く知らないという用語を極力減らし、用語・内容共に聞いたことがあるというレベルに引き上げる ・広い知識を持つことの重要性を認識し、興味の少ない分野の学習も積極的に行う ・様々なことに興味を持ち、自ら積極的に学習をすすめられるようにする						
評価方法と基準	出席＝20%、期末試験＝60%、授業態度＝20%の合計100点満点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	講義内容の説明(ガイダンス) 教養とは何か?なぜ一般教養を学ぶのか?	①その週に起きた出来事、ニュース等を事前に調べておく。 ②マスコミやSNS等で世の中の流れ、トレンドを掴んでおく。 ③授業で学んだことの中で興味のある分野については、関連図書を読むなど、自ら積極的に知識を増やすよう努力することが望ましい。
2	4月25日	講義・演習	時事、人物分野に興味を持ち知識を増やす	
3	5月9日	講義・演習	時事、政治分野に興味を持ち知識を増やす	
4	5月16日	講義・演習	時事、英語・国語分野に興味を持ち知識を増やす	
5	5月23日	講義・演習	時事、数学・理科分野に興味を持ち知識を増やす	
6	5月30日	講義・演習	時事、文化・スポーツ分野に興味を持ち知識を増やす	
7	6月13日	講義・演習	時事、歴史分野に興味を持ち知識を増やす	
8	6月20日	講義・演習	時事、地理・経済分野に興味を持ち知識を増やす	
9	6月27日	講義・演習	時事、英語・国語分野に興味を持ち知識を増やす	
10	7月4日	講義・演習	時事、数学・理科分野に興味を持ち知識を増やす	
11	7月11日	講義・演習	時事、文化・スポーツ分野に興味を持ち知識を増やす	
12	7月18日	講義・演習	時事、マナーに興味を持ち知識を増やす	
13	8月29日	講義・演習	前期に学習した知識の復習 時事に興味を持ち知識を増やす	
14	9月5日	期末試験	筆記テスト	
15	9月12日	講義	試験の解答・解説 前期のまとめと継続学習の動機付け	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】「超速マスター!一般常識&時事問題」(高橋書店)				

科目名	一般教養Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松山智彦
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	金融系システムエンジニア、ITコンサルタント、ネット専業証券会社広報						
授業の学習 内容	・社会人として必要とされる教養を身につける ・卒業後に仕事場で、様々なバックグラウンドを持つ人々と交流することを想定し、広い分野の知識を増やし、円滑なコミュニケーションが取れるようにする ・中学・高校で学んだ基本的な知識の復習、各種試験の演習を通して、就職試験の一般教養テストの対策を行う ・講義形式は授業の前半は時事、後半はテキストにある問題を解く						
到達目標	・時事ニュース等に関して、全く知らないという用語を極力減らし、用語・内容共に聞いたことがあるというレベルに引き上げる ・広い知識を持つことの重要性を認識し、興味の少ない分野の学習も積極的に行う ・様々なことに興味を持ち、自ら積極的に学習をすすめられるようにする						
評価方法と基準	出席＝20%、期末試験＝60%、授業態度＝20%の合計100点満点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	9月26日	講義・演習	時事、重要用語に興味を持ち知識を増やす	①その週に起きた出来事、ニュース等を事前に調べておく。 ②マスコミやSNS等で世の中の流れ、トレンドを掴んでおく。 ③授業で学んだことの中で興味のある分野については、関連図書を読むなど、自ら積極的に知識を増やすよう努力することが望ましい。	
2	10月3日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 政治・経済の問題を解く		
3	10月10日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 政治・経済の問題を解く		
4	10月17日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 地理・歴史の問題を解く		
5	10月24日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 国語・英語の問題を解く		
6	10月31日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 数学の問題を解く		
7	11月14日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 理科の問題を解く		
8	11月21日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 国語・英語の問題を解く		
9	11月28日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 国際・社会の問題を解く		
10	12月5日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 国際・社会の問題を解く		
11	12月12日	講義・演習	時事に興味を持ち知識を増やす 文化・スポーツの問題を解く		
12	12月19日	講義・演習	期末試験		
13	1月16日	講義・演習	試験の解答・解説 後期のまとめと継続学習の動機付け		
14	1月23日	期末試験	時事、最新情報(用語等)に興味を持ち知識を増やす	①その週に起きた出来事、ニュース等を事前に調べておく。 ②マスコミやSNS等で世の中の流れ、トレンドを掴んでおく。 ③授業で学んだことの中で興味のある分野については、関連図書を読むなど、	
15	1月30日	講義	時事に興味を持ち知識を増やす 後期に学習した知識の復習		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】「超速マスター！一般常識&時事問題」(高橋書店)					

科目名	コンピューター演習Ⅴ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	高梨 優
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制（昼二）	授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 1		
教員の略歴	子供向け雑貨の商品企画、原価計算、在庫管理、オリジナル商品の企画、デザイン、制作、販売、印刷物関係などを行ってありました。						
授業の学習 内容	デザインに特化したAdobeイラストレーターの基礎を学ぶ。 【SEP】イラストレーターを使用し、ポスター・紹介パネル・DMカード・入場券など掲示物や配布物の作成方法を学ぶ。 【SEP】展示物の説明や配布物などの見やすいレイアウトを学ぶ。						
到達目標	デザイナーが使用するトンボやドブ、カットの仕方など専門的な基礎知識を学び、イラストレーターを使用してポスター・紹介パネル・DMカード・入場券などの掲示物や配布物を作成することができる。 【SEP】恐竜やレプタイルズの説明や展示の宣伝を文章だけでなく、イラストや写真を使いながら分かりやすく楽しく伝え、興味を惹く掲示物や配布物を作成することができる。						
評価方法と基準	各課題において【提出データ：45点満点】【提出作品：45点満点】【締め切り：10点満点】合計100点とし、学期中の課題点数の平均点を成績とします。 【SEP】【提出データ】文字のアウトライン化・画像の埋め込み・トンボやドブの有無・データ不具合の有無 【提出作品】汚れなどがなく綺麗に制作できているか・寸法のズレなどがないか・デザイン上の不具合がないか 【SEP】【締め切り】提出期日までにデータと制作作品が提出できたか						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	A/16	講義・演習	矩形を使ってイラストを描いてみよう！	イラストレーターの設定や矩形の使い方の復習
2	A/23	講義・演習	矩形と色々なツールでイラストを描いてみよう！	色々なツールの使い方の復習
3	M/7	講義・演習	ペンツールでイラストをトレースしてみよう！	ペンツールの使い方の復習
4	M/14	講義・演習	マスク・整列・文字の装飾のオペレーション	マスク・整列・文字装飾の復習
5	M/21	講義・演習	模様作成（ストライプ・チェック・ドット・格子）	模様作成手順の復習
6	J/4	講義・演習	恐竜の紹介パネルを見本通り作ってみよう！	パネル作成の基本（トンボ・ドブ・配置）の復習
7	J/11	講義・演習	生物の紹介パネルを作ってみよう！①レイアウト	パネルに記載する内容をまとめる
8	J/18	講義・演習	生物の紹介パネルを作ってみよう！②レイアウト	パネルのレイアウトの構想
9	J/25	講義・演習・提出	生物の紹介パネルを作ってみよう！③パネル実作	パネルの作り方の復習
10	J/2	講義・演習	マスキングテープを作ってみよう！①テーマ決め	サイズ・テーマの構想
11	J/9	講義・演習	マスキングテープを作ってみよう！②レイアウト決め	レイアウトの構想を固める
12	J/16	講義・演習	マスキングテープを作ってみよう！③デザイン作成	デザインの見直し・作成
13	A/27	講義・演習	マスキングテープを作ってみよう！④デザイン作成	デザインの見直し・作成
14	S/3	講義・演習	マスキングテープを作ってみよう！⑤デザイン作成	デザインの見直し・作成
15	S/10	講義・演習・提出	マスキングテープを作ってみよう！⑥入稿データ	デザインを完成に近づける
準備学習 時間外学習			授業時間では足りないアイデア出しやビジュアル作成などを主に学習課題とします。	
【使用教科書・教材・参考書】				
特に無し				

科目名	恐竜学Ⅰ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員	斎藤勇太
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	学士(生物資源学)。長崎市恐竜博物館指定管理者。恐竜博等の設営関係業務の経験少々。インターネットで世界80箇所以上の博物館等を紹介。						
授業の学習 内容	古生物に関してあまり詳しくない方々にとって興味をもっていただけるよう、「恐竜とは何か」、「復元の変遷」、「地質時代区 分」など多様なテーマやトピックを取り扱う。 骨格からの復元や分 類を実践する。 新しい研究を紹介しつつ、これま での恐竜研究の流れを振り返る。						
到達目標	博物学と分岐学に興味を持つ。 科学研究で何がわかるのか、何がわからないのかを知る。 状況証拠の理解不足について理解する。						
評価方法と基準	期試験ト80% 筆記試験評価:GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	恐竜とは何か、化石とは何か	国語辞典で「恐竜」の意味を調べ、講義内容との違いを探す。
2		講義	イメチェンした恐竜たち（復元の変遷）	一種類の恐竜について、古い復元画と新しい復元画の違いを見つける。
3		講義	ドラゴンハンター伝説（研究史）	一種類の恐竜について、原記載者と記載年を調べる。
4		講義	いのちの歴史（地質時代区分）	三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の代表的な生物を調べる。
5		講義	恐竜発見マップ（世界の地層、日本の地層）	地質年代が一致する二つの地層を見つける。
6		講義	恐竜の生き様（恐竜の生態）	恐竜の怪我や病気について調べる。
7		講義	恐竜の秘密	恐竜についてどのような事が知られていないかを調べる。
8		講義	恐竜博物館	外国の恐竜博物館と日本の恐竜博物館について一つずつ調べる。
9		講義	恐竜の名前の意味	興味のある生物の学名の意味について調べる。
10		講義	有名な恐竜標本	目玉的に同種別個体の恐竜を調べ、それぞれの個性を見つける。
11		講義	試験対策	試験範囲からの予習と対策。
12		講義	筆記試験	試験範囲からの予習と対策。
13		講義	試験の解説	試験範囲の復習。
14		講義	恐竜をあつかう職業	恐竜を利用可能なビジネスとしてどのような物が考えられるか検討する。
15		講義	振り返りを行うことで、恐竜への理解を深める。	講義内容について疑い、確実性の低そうなものを調べる。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	論文研究 I	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	斎藤勇太
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	学士(生物資源学)。長崎市恐竜博物館指定管理者。恐竜博等の設営関係業務の経験少々。インターネットで世界80箇所以上の博物館等を紹介。						
授業の学習 内容	学術論文の構成、出版までの手続き、研究倫理などについて学ぶ。実際に出版されている学術論文を読み、研究方法や分析方法などのパターンを知る。論文の探し方を学ぶ。						
到達目標	受講者は将来学術論文を執筆することはないかもしれないが、研究者と共に働く機会には恵まれ得る。将来のビジネスパートナーを知る為に、学術論文に触れ、研究者の業務や倫理感の一端をよく理解する事を目標とする。また、情報に対して適切な解釈ができるよう、情報源をトレースする方法や習慣を身に着ける。						
評価方法と基準	発表100% ある分野の論文を探し、読解し、スライドショーで紹介。 自ら興味の						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	学術論文の概要説明。論文紹介。	紹介された論文を自ら読んでみる。
2		講義	論文の探し方。論文紹介。	論文を探す。
3		講義	論文作成方法の説明	紹介された論文を自ら読んでみる。
4		講義	論文作成方法の検討	紹介された論文を自ら読んでみる。
5		講義	論文作成方法に関する議論	紹介された論文を自ら読んでみる。
6		講義	関心領域の検討	関心領域の検討
7		講義	研究テーマの検討	研究テーマの検討
8		講義	先行研究のレビュー方法	先行研究のレビュー
9		講義	先行研究のレビュー実践	先行研究のレビュー
10		講義	先行研究のまとめ方	論文読解。スライドショー作成。
11		講義	中間総括	論文読解。スライドショー作成。
12		講義	論文の方向性について	論文読解。スライドショー作成。
13		講義	研究テーマの明確化	論文読解。スライドショー作成。
14		講義	論文のテーマの明確化	論文読解。スライドショー作成。
15		発表	先行研究の発表。	夏季休暇中の目田研究を時間外学習に充当する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	論文研究Ⅱ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	斎藤勇太
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	学士(生物資源学)。長崎市恐竜博物館指定管理者。恐竜博等の設営関係業務の経験少々。インターネットで世界80箇所以上の博物館等を紹介。						
授業の学習 内容	論文執筆の方法について学習した上で、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。研究課題を遂行するためのアプローチ、調査方法を検討し、論文執筆に向けて構想を明確化する。						
到達目標	論文の形式を理解し、自ら執筆する能力を獲得する。						
評価方法と基準	論文の提出と発表。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	構想発表会の原稿作成	構想発表会の原稿作成
2		講義	構想発表会の原稿作成	構想発表会の原稿作成
3		講義	構想発表会の原稿作成	構想発表会の原稿作成
4		講義	構想発表会	論文構想の明確化の準備
5		講義	論文構想の明確化	論文構想の明確化
6		講義	論文構想の明確化	論文構想の明確化
7		講義	論文構想の明確化	論文構想の明確化
8		講義	中間総括	論文作成の準備
9		講義	論文作成	論文作成
10		講義	論文作成	論文作成
11		講義	論文作成	論文作成
12		講義	論文作成	論文作成
13		講義	論文作成	論文作成
14		講義	論文作成	論文作成
15		講義	論文発表	他の発表者の研究を評価
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	地学基礎 地球科学概論Ⅱ 地学	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	保坂尚伸
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	立正大学文学部地理学科卒、通信制高校サポート校栄光国際学院、わせがく高等学校、東邦大学付属東邦中学高等学校、						
授業の学習 内容	化石に関わる知識をより深めるために地学を学ぶ。						
到達目標	・地球上で起こっている様々な変化を理解できるようになる。 ・岩石の特徴を知る。 ・化石がどのように作られるのかを理解できるようになる。 ・化石がどのように出現するのかを理解できるようになる。 ・古代生物の進化の過程を理解できるようになる。 ・化石の採集、及びクリーンナップに必要な知識を得る。						
評価方法と基準	定期試験を基準とし、出席及び授業態度も加味する。(定期試験80% その他20%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	地球の構造(地球の内部及びプレートテクトニクス等)を理解する。		レポート
2		講義	地震の起こる仕組みを理解する。		レポート
3		講義	火山活動について理解する。		レポート
4		講義	地表面の変化(侵食、風化など)について理解する。		レポート
5		講義	小地形(扇状地、三角州など)について理解する。		レポート
6		講義	堆積岩について理解する。		レポート
7		講義	変成岩について理解する。		レポート
8		講義	地層について理解する。		レポート
9		講義	化石について理解する。		レポート
10		講義	地球の歴史について理解する。その1 先カンブリア時代		レポート
11		講義	地球の歴史について理解する。その2 古生代		レポート
12		講義	地球の歴史について理解する。その3 中生代		レポート
13		講義	地球の歴史について理解する。その4 新生代及び生物の大量絶滅		レポート
14		試験	試験		試験の準備
15		講義	振り返り		試験の振り返り
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	地学基礎 地球科学概論Ⅰ 地理	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	保坂尚伸
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	立正大学文学部地理学科卒、通信制高校サポート校栄光国際学院、わせがく高等学校、東邦大学付属東邦中学高等学校、						
授業の学習 内容	地理を通じ、世界各地の気候風土を知り、各地の文化に触れながら、世界の国々について学ぶ。						
到達目標	・世界の国々を知る。 ・世界各地の気候風土の特徴を理解する。 ・世界各地の文化の成り立ちと違いを知る。 ・世界各地の文化に触れ、文化の違いを許容できるような広い心を培う。 ・国と国、人と人の繋がりの重要性を理解する。 ・様々な情報や知識を活用し、より深く物事を探求する姿勢を身につける。						
評価方法と基準	定期試験を基準とし、出席及び授業態度も加味する。(定期試験80% その他20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	世界の大陸、海洋、国々の配置などを理解する。	レポート
2		講義	世界の気候、地形について学ぶ。	レポート
3		講義	東アジアについて学ぶ。	レポート
4		講義	東南アジアについて学ぶ。	レポート
5		講義	南アジアについて学ぶ。	レポート
6		講義	西アジアについて学ぶ。	レポート
7		講義	中央アジアについて学ぶ。	レポート
8		講義	ヨーロッパについて学ぶ。	レポート
9		講義	アフリカについて学ぶ。	レポート
10		講義	北アメリカについて学ぶ。	レポート
11		講義	南アメリカについて学ぶ。	レポート
12		講義	オセアニアについて学ぶ。	レポート
13		講義	日本について学ぶ。	レポート
14		試験	試験	試験の準備
15		講義	振り返り	試験の振り返り
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	鉱物とジェムストーン I	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	保坂尚伸
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	立正大学文学部地理学科卒、通信制高校サポート校栄光国際学院、わせがく高等学校、東邦大学付属東邦中学高等学校、						
授業の学習 内容	鉱石やジェムストーンを学ぶ。						
到達目標	・鉱石やジェムストーンを知る。 ・それぞれの鉱石やジェムストーンの生成過程を理解する。 ・それぞれの鉱石やジェムストーンの特徴を見極められるようになる。 ・鉱物やジェムストーンの加工について知る。 ・加工された物と未加工の物の違いがわかるようになる。 ・鉱物やジェムストーンの加工技術の基本を習得する。						
評価方法と基準	定期試験を基準とし、出席及び授業態度も加味する。(定期試験80% その他20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション 鉱石及びジェムストーンとは何か	レポート
2		講義	水晶	レポート
3		講義	アメジスト	レポート
4		講義	メノウ(アゲート)	レポート
5		講義	黒曜石	レポート
6		講義	タイガーアイ	レポート
7		講義	フローライト	レポート
8		講義	ムーンストーン	レポート
9		講義	ラピスラズリ	レポート
10		講義	オパール	レポート
11		講義	アマゾナイト	レポート
12		講義	トルコ石	レポート
13		講義	ラブラドライト/スペクトロライト	レポート
14		試験	試験	試験の準備
15		講義	振り返り	試験の振り返り
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	鉱物とジェムストーンⅡ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	保坂尚伸
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	立正大学文学部地理学科卒、通信制高校サポート校栄光国際学院、わせがく高等学校、東邦大学付属東邦中学高等学校、						
授業の学習 内容	鉱石やジェムストーンを学ぶ。						
到達目標	・鉱石やジェムストーンが存在を知る。 ・それぞれの鉱石やジェムストーンの生成過程を理解する。 ・それぞれの鉱石やジェムストーンの特徴を見極められるようになる。 ・鉱物やジェムストーンの加工について知る。 ・加工された物と未加工の物の違いがわかるようになる。 ・鉱物やジェムストーンの加工技術の基本を習得する。						
評価方法と基準	定期試験を基準とし、出席及び授業態度も加味する。(定期試験80% その他20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	金・銀・銅	レポート
2		講義	ダイヤモンド	レポート
3		講義	ルビー/サファイア	レポート
4		講義	ヒスイ	レポート
5		講義	パイライト	レポート
6		講義	カルサイト	レポート
7		講義	ルチル	レポート
8		講義	セレナイト	レポート
9		講義	デザートローズ	レポート
10		講義	ミネラルショー見学(東京国際ミネラルショー が開催された場合)	レポート
11		講義	アンバー(琥珀)	レポート
12		講義	ラリマー	レポート
13		講義	モリオン・スモーキークォーツ・シトリン	レポート
14		試験	試験	試験の準備
15		講義	振り返り	試験の振り返り
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	博物館情報・メディア論Ⅰ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	山崎 優佑
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	2019年に立正大学大学院地球環境科学科専攻を修了。同年4月からNPO法人バードリサーチで越冬期の鳥類の分布状況について調査・分析を行っている。						
授業の学習 内容	博物館における情報・メディアを学習する。						
到達目標	博物館における情報・メディアとは何かを説明できるようになる。						
評価方法と基準	作品評価:GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 試験資格は学生便覧学則に沿うものとする。 出席率66.7%以上に試験受験後の単位認定を行う。 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	メディアとしての博物館	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
2	4月24日	講義	情報とメディアの基礎	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
3	5月8日	講義	メディア・リテラシー	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
4	5月15日	講義	デジタル・アーカイブズ	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
5	5月22日	実習	知的財産	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
6	6月5日	講義	博物館のユニバーサルデザイン	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
7	6月12日	講義	博物館教育と情報・メディア	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
8	6月19日	講義	様々なコミュニティとの連携	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
9	6月26日	講義	科学系博物館における情報・メディア	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
10	7月3日	講義	水族の博物館における情報・メディア	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
11	7月10日	講義	日本モンキーセンターにおける情報・メディア	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
12	7月17日	講義	民族と歴史の博物館における情報・メディア	準備学習：教科書を読んでおく 時間外学習：授業で学習した内容の復習
13	8月28日	講義	試験勉強	準備学習：これまでの授業の復習 時間外学習：授業内容の復習
14	9月4日	講義	期末試験(ペーパーテスト実施)	準備学習：これまでの授業の復習 時間外学習：授業内容の復習
15	9月11日	講義	試験解答及び全過程の総括	理解しにくかった項目を予め調べる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	博物館情報・メディア論Ⅱ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	山崎 優佑
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	2019年に立正大学大学院地球環境科学科専攻を修了。同年4月からNPO法人バードリサーチで越冬期の鳥類の分布状況について調査・分析を行っている。						
授業の学習 内容	博物館における情報・メディアを学習する。 学校に展示されている標本に関する情報・メディアを考える						
到達目標	博物館における情報・メディアとは何かを説明できるようになる。 学校の展示品の解説や情報発信を行う。						
評価方法と基準	作品評価:GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) レポート課題を提示し、提出をもって評価する。 出席率66.7%以上に試験受験後の単位認定を行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	美術館における情報・メディア	準備学習:教科書を読んでおく 時間外学習:授業で学習した内容の復習
2	10月9日	講義	地域の総合博物館における情報・メディア	準備学習:教科書を読んでおく 時間外学習:授業で学習した内容の復習
3	10月16日	講義	考古の博物館における情報・メディア	準備学習:教科書を読んでおく 時間外学習:授業で学習した内容の復習
4	10月23日	講義	地域の総合博物館における情報・メディア	準備学習:教科書を読んでおく 時間外学習:授業で学習した内容の復習
5	10月30日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:教科書を読んでおく 時間外学習:授業で学習した内容の復習
6	11月6日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:発表の準備
7	11月13日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:発表の準備
8	11月20日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:発表の準備
9	11月27日	講義	レポート作成	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:発表の準備
10	12月4日	講義	レポート作成・最初の提出	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:発表の準備
11	12月11日	講義	レポート修正	準備学習:発表の準備 時間外学習:発表の振り返り
12	12月18日	講義	最終レポート提出	準備学習:これまでの授業の復習 時間外学習:レポート作成
13	1月15日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:レポート作成 時間外学習:レポート作成・修正
14	1月22日	講義	恐竜・自然史博物専攻における情報・メディア (校内の展示品の情報メディアを考えていく)	準備学習:なし 時間外学習:レポート作成・修正
15	1月29日	講義	振り返り	準備学習:レポート作成・修正 時間外学習:なし
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	博物館教育論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	博物館教育の目的や意義を学び、博物館施設に関わる者としての基礎づくりをします。 また博物館に限らず、社会教育施設に関わる仕事を目指していく人は、入り口と捉えて、積極的に学習をしてください。 授業は座学が中心ですが、博物館での活動を具体的にイメージする演習も行います。						
到達目標	博物館教育の基礎知識を身につける。 教育普及プログラムを運営する基礎づくりをする。 自然史系の博物館に限らず、博物館施設へ幅広く興味を持つ。 博物館に関わる職種や活動を知り、自分の道と照らし合わせる。						
評価方法と基準	定期テスト60% 出席数40% 試験評価:GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	オリエンテーション	
2	4月25日	講義	博物館教育とは	
3	5月9日	講義・演習	ワークショップ開発①	昨年博物館概論で行った演習を実践へまとめ ていく
4	5月16日	講義・演習	ワークショップ開発②	昨年博物館概論で行った演習を実践へまとめ ていく
5	5月23日	講義	博物館教育の歴史①	
6	5月30日	講義	博物館教育の歴史②	
7	6月13日	講義	博物館利用者(学校、家族)	
8	6月20日	講義	博物館と教材①	
9	6月27日	講義	博物館と教材②	
10	7月4日	講義	博物館のコミュニケーション	
11	7月11日	講義	博物館のインタラクティブ性	
12	7月18日	講義・演習	博物館の解説を実践する ③	昨年博物館概論で行った演習を実践へまとめ ていく
13	8月29日	講義・演習	博物館の解説を実践する④	昨年博物館概論で行った演習を実践へまとめ ていく
14	9月5日	試験	60分の筆記試験	
15	9月12日	振り返り	テスト結果からの振り返り	
準備学習 時間外学習			博物館や教育について興味関心を持ち、情報を得ること。□	
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	博物館教育論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	博物館教育の目的や意義を学び、博物館施設に関わる者としての基礎づくりをします。 また博物館に限らず、社会教育施設に関わる仕事を目指していく人は、入り口と捉えて、積極的に学習をしてください。 授業は座学が中心ですが、博物館での活動を具体的にイメージする演習も行います。						
到達目標	博物館教育の基礎知識を身につける。 教育普及プログラムを運営する基礎づくりをする。 自然史系の博物館に限らず、博物館施設へ幅広く興味を持つ。 博物館に関わる職種や活動を知り、自分の道と照らし合わせる。						
評価方法と基準	定期テスト60％ 出席数40％ 試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	自然科学系博物館の教育普及事業①	
2	10月3日	講義	自然科学系博物館の教育普及事業②	
3	10月10日	講義	人文科学系博物館の教育普及事業①	
4	10月17日	講義	人文科学系博物館の教育普及事業②	
5	10月24日	演習	講師によるワークショップ体験①	
6	10月31日	演習	講師によるワークショップ体験②	
7	11月14日	講義	地域と博物館	
8	11月21日	講義	博物館教育とSDGs①	
9	11月28日	講義	博物館教育とSDGs②	
10	12月5日	講義	博物館教育とボランティア	
11	12月12日	講義	博物館と連携組織	
12	12月19日	試験	60分の筆記試験	
13	1月16日	振り返り	テスト結果からの振り返り	
14	1月23日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ販売①	一年前に販売が始まったミュージアムグッズ に対する振り返り
15	1月30日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ販売②	一年前に販売が始まったミュージアムグッズ に対する振り返り
準備学習 時間外学習			博物館や教育について興味関心を持ち、情報を得ること。□	
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	生涯学習概論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	生涯を通じて学習を行うタイミングがあります。 生活の向上、職業上の能力の向上、自己の実現を目指すことを基本とする生涯学習の在り方を学び、各人が自発的な学習の意思を持つことを目指します。 また講師個人の経験の伝達を通して、多様な学習への道をイメージしてください。 授業は座学が中心ですが、生涯学習の支援を目指す演習も多種行います。						
到達目標	博物館施設との関わりを目指すにあたり、生涯学習の基礎知識の必要性を知る。 自発的な学習意欲を持つ。 他者の学習を支援するスキルを身につける。 他者の学習を支援する環境を想像・創造する。						
評価方法と基準	定期テスト60％ 出席数40％ 試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	オリエンテーション/講師と各学生が行ってきた学習について	
2	4月25日	講義	生涯学習の定義、意義、理念	
3	5月9日	講義	生涯学習と家庭教育①	
4	5月16日	講義	生涯学習と家庭教育②	
5	5月23日	講義	生涯学習と学校教育①	
6	5月30日	講義	生涯学習と学校教育②	
7	6月13日	講義	生涯学習と社会教育①	
8	6月20日	講義	生涯学習と社会教育②	
9	6月27日	講義・演習	子ども向けワークショップ開発①	子どもに関する施設を調査しておく
10	7月4日	講義・演習	子ども向けワークショップ開発②	身近な素材に気づく視点を持つ
11	7月11日	講義・演習	子ども向けワークショップ開発③	対象(子ども)の視点を時間外でもイメージしておく
12	7月18日	講義	社会教育関係の指導者	博物館概論の授業の学習員に関する学習も復習しておく
13	8月29日	講義	生涯学習とボランティア	
14	9月5日	試験	60分の筆記試験	
15	9月12日	振り返り	テスト結果からの振り返り	
準備学習 時間外学習			身近な生涯学習、生涯学習環境等に興味を持つこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
生涯学習概論/よくわかる生涯学習 ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	生涯学習概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	生涯を通じて学習を行うタイミングがあります。 生活の向上、職業上の能力の向上、自己の実現を目指すことを基本とする生涯学習の在り方を学び、各人が自発的な学習の意思を持つことを目指します。 また講師個人の経験の伝達を通して、多様な学習への道をイメージしてください。 授業は座学が中心ですが、生涯学習の支援を目指す演習も多種行います。						
到達目標	博物館施設との関わりを目指すにあたり、生涯学習の基礎知識の必要性を知る。 自発的な学習意欲を持つ。 他者の学習を支援するスキルを身につける。 他者の学習を支援する環境を想像・創造する。						
評価方法と基準	定期テスト60％ 出席数40％ 試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	社会教育施設①	博物館概論の授業の博物館に関する学習も復習しておく
2	10月3日	講義	社会教育施設②	博物館概論の授業の博物館に関する学習も復習しておく
3	10月10日	講義	生涯学習とまちづくり	
4	10月17日	講義	生涯学習と健康	
5	10月24日	講義	生涯学習と就職	
6	10月31日	講義	生涯学習と高齢者	
7	11月14日	講義	社会教育事業の設計と手順	
8	11月21日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ開発①	備考:群馬県立自然史博物館ミュージアム ショップでの販売を予定している
9	11月28日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ開発②	備考:群馬県立自然史博物館ミュージアム ショップでの販売を予定している
10	12月5日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ開発③	備考:群馬県立自然史博物館ミュージアム ショップでの販売を予定している
11	12月12日	講義・演習	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ開発④	備考:群馬県立自然史博物館ミュージアム ショップでの販売を予定している
12	12月19日	試験	60分の筆記試験	
13	1月16日	振り返り	テスト結果からの振り返り	
14	1月23日	演習	TCAにおける生涯学習利用の可能性	
15	1月30日	講義	講師とコラボレーションしたミュージアム ショップグッズ開発⑤	備考:群馬県立自然史博物館ミュージアム ショップでの販売を予定している
準備学習 時間外学習			身近な生涯学習、生涯学習環境等に興味を持つこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
生涯学習概論/よくわかる生涯学習 ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	博物館概論Ⅰ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	博物館の定義と目的、博物館の基本機能や学芸員の役割などを学び、博物館施設へ関わる者としての基礎づくりをします。 またいずれ学芸員や展示解説員などを目指していく人は、各分野の必要な専門的知識・技術を身につけるための入り口と捉えて、積極的に学習をしてください。 授業は座学が中心ですが、博物館での活動を具体的にイメージする演習も行います。						
到達目標	博物館学の基礎知識を身につける。 学芸員や展示解説員などの基礎知識を身につける。 自然史系の博物館に限らず、博物館施設へ幅広く興味を持つ。 博物館に関わる職種や活動を知り、自分の道と照らし合わせる。						
評価方法と基準	定期テスト60％ 出席数40％ 試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	オリエンテーション/講師紹介、講師の展示 解説員としての経験について	
2	4月25日	講義	博物館学とは	
3	5月9日	講義	博物館の種類と現状	
4	5月16日	講義	学芸員の役割と活動	
5	5月23日	講義	学芸員と組織	博物館に関係する職種を調べておく
6	5月30日	講義・演習	各人が興味を持つ博物館職員について調査・ 発表☒	各人が興味を持つ博物館職員について、でき る限り調査しておく☒
7	6月13日	講義	博物館展示の基本	
8	6月20日	講義	博物館の展示手法	
9	6月27日	講義	博物館の空間	
10	7月4日	講義	博物館の情報と解説	
11	7月11日	講義	博物館教育の可能性	
12	7月18日	講義・演習	博物館の解説を実践する①	TCAの展示資料内で解説したいものを探して おく
13	8月29日	講義・演習	博物館の解説を実践する②	TCAの展示資料内で解説したいものを探して おく
14	9月5日	試験	60分の筆記試験	
15	9月12日	振り返り	テスト結果からの振り返り	
準備学習 時間外学習			博物館について興味関心を持ち、情報を得ること。☐	
【使用教科書・教材・参考書】				
新時代の博物館学/博物館概論 ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	博物館概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	近藤愛子
学科・コース	エコ・イノベーション科4年制(昼二)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	群馬県立女子大学大学院修了、群馬県立自然史博物館展示解説員、美術家、デザイナー、施設アートディレクター、大学非常勤講師						
授業の学習 内容	博物館の定義と目的、博物館の基本機能や学芸員の役割などを学び、博物館施設へ関わる者としての基礎づくりをします。 またいずれ学芸員や展示解説員などを目指していく人は、各分野の必要な専門的知識・技術を身につけるための入り口と捉えて、積極的に学習をしてください。 授業は座学が中心ですが、博物館での活動を具体的にイメージする演習も行います。						
到達目標	博物館学の基礎知識を身につける。 学芸員や展示解説員などの基礎知識を身につける。 自然史系の博物館に限らず、博物館施設へ幅広く興味を持つ。 博物館に関わる職種や活動を知り、自分の道と照らし合わせる。						
評価方法と基準	定期テスト60％ 出席数40％ 試験評価：GPA(A100～90 B89～80 C79～70 D69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題を提示し、提出をもってDの評価とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	9月26日	講義	ヨーロッパとアメリカにおける博物館の歴史 ①		
2	10月3日	講義	ヨーロッパとアメリカにおける博物館の歴史 ②		
3	10月10日	講義	アジア・アフリカにおける博物館の歴史		
4	10月17日	講義	日本における博物館の歴史①		
5	10月24日	講義	日本における博物館の歴史②		
6	10月31日	講義・演習	各人が興味を持つ日本の博物館の歴史について調査・発表	各人が興味を持つ日本の博物館の歴史について調査し、調査資料を持参する	
7	11月14日	講義	国家体制や宗教観と博物館		
8	11月21日	講義	ICOM(国際博物館会議)		
9	11月28日	講義	博物館資料の収集・保管・研究		
10	12月5日	講義	博物館資料と文化財		
11	12月12日	講義	国・地方自治体の博物館行政		
12	12月19日	試験	60分の筆記試験		
13	1月16日	振り返り	テスト結果からの振り返り		
14	1月23日	講義・演習	博物館の広報	各人が興味を持つ日本の博物館の展示(1点)の写真資料を持参する☑	
15	1月30日	講義・演習	博物館の広報	各人が興味を持つ日本の博物館の展示(1点)の写真資料を持参する☑	
準備学習 時間外学習			博物館について興味関心を持ち、情報を得ること。□		
【使用教科書・教材・参考書】					
新時代の博物館学/博物館概論 ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。					

科目名	キャリアデザインⅠ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	4	担当教員	松井 かおり
学科・コース	野生・博物館＆・恐竜・動物園水族館テクノロジー	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	研修講師として専門学校・企業・自治体にて活動。認定カウンセラー。若者支援活動の経験も持つ。						
授業の学習 内容	この授業は、学生生活はもちろん、社会に出てからも必ず必要となるコミュニケーションのスキルを習得・ブラッシュアップする授業です。基礎コミュニケーション、ビジネスコミュニケーションのスキルアップを目指し、「クラスの仲間との関係づくり」から「実習先、社会人に向け必要な振る舞い」まで、様々なコミュニケーションのトレーニングをしていく授業です。また、知識としての理解だけでなく、体験ワークを通して自ら考え、社会で実践できるレベルを目指していきます。						
到達目標	・他者と自分自身の価値観の違いを理解し、お互いを尊重した人間関係を構築することができる。 ・自分自身の特徴を知り、様々な場面で自己表現ができる。 ・仕事のチームワークとはどんなものかを理解し、チームの目的や役割を意識してチームに参加できる。 ・社会で人間関係を円滑に進めるための様々なコツを理解し、体験を通して身につけることができる。						
評価方法と基準	【評価方法】 1)ワークブック提出・授業態度＝40% 2)定期試験＝60% 【評価基準】 1)定期試験は、ワークブックの記入・提出と筆記または実技試験での評価とする。 2)授業態度は、参加姿勢や定期提出物の有無、内容を含む。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	【オリエンテーション】自己スキルチェックで自己分析、課題発見ができる ※アイスブレイキング	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
2		講義、演習	【価値観の理解】多様な価値観に触れ、共通点・相違点に気づくことができる (教科書第1.2章)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
3		講義、演習	【価値観の理解】それぞれの持つ価値観について、仲間と共有できる (教科書 第2章Ⅱ)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
4		講義、演習	【自己理解力・他者理解力】人から見た自分のイメージを知り、仲間のイメージを考える (教科書第	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
5		講義、演習	【チームワークスキル】グループの存在目的と役割を理解し、主体的に参加できる (教科書 第2章	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
6		講義、演習	【コミュニケーション基礎】会話の成り立ちを理解し、基本スキルを習得できる (教科書第2章Ⅰ)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
7		講義、演習	【コミュニケーション基礎】「伝える」「聴く」のポイントやコツを理解して実践できる (教科書第2	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
8		講義、演習	【ビジネスコミュニケーション】仕事に必要な伝え方・聴き方を理解できる	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
9		講義、演習	【ビジネスコミュニケーション】適切な自己表現の方法を理解し、を習得できる (教科書第3章Ⅰ)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
10		講義、演習	【自己理解】自身の強みについて考え、明確にできる	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
11		講義、演習	【コミュニケーション基礎】温かい言葉かけの大切さを理解し、実践できる (教科書第3章Ⅰ)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
12		講義、演習	【チームワークスキル】グループで課題解決に向けて協力できる (教科書 第2章Ⅱ)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
13		講義、演習	【検定講義①】CSU検定に向け、各章のポイントを理解できる (教科書第1.2章)	・ 授業終了時に立てた行動計画を実践する	
14		試験	筆記試験		
15		講義、演習	【振り返り】前期試験結果と自己チェックを振り返り、後期に向け目標を設定することができる	・ 後期目標設定	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	化石プレパレーションⅦ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	4	担当教員	斎藤勇太
学科・コース	恐竜・自然史博物専攻	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	学士(生物資源学)。長崎市恐竜博物館指定管理者。恐竜博等の設置関係業務の経験少々。インターネットで世界80箇所以上の博物館等を紹介。						
授業の学習 内容	管理表を用いてアトリウムライブラリーに所蔵している書籍や標本の管理を行う。キャプションを作成する。						
到達目標	博物館資料の保管、保全、展示業務を実践することで、それらの重要性を経験的に理解する。						
評価方法と基準	最終講義終了時点で管理表とキャプションに不備がなければ合格とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
2		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
3		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
4		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
5		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
6		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
7		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
8		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
9		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
10		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
11		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
12		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
13		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
14		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
15		講義・演習	書籍・標本の管理、展示キャプション作成	アトリウムライブラリーの書籍・資料管理作業を時間外学習に充当する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	化石プレパレーションⅧ	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	4	担当教員	斎藤勇太
学科・コース	恐竜・自然史博物専攻	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	学士(生物資源学)。長崎市恐竜博物館指定管理者。恐竜博等の設営関係業務の経験少々。インターネットで世界80箇所以上の博物館等を紹介。						
授業の学習 内容	パキケファロサウルスの関節骨の補完、アンキロサウルス頭骨のベース作製。						
到達目標	博物館資料の補完、展示業務を実践することで、それらの重要性を経験的に理解する。						
評価方法と基準	出席日数(S15、A14～13、B12～11、C10～9、F8～0)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
2		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
3		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
4		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
5		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
6		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
7		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
8		講義・演習	パキケファロサウルス関節骨の補完	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
9		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
10		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
11		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
12		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
13		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
14		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
15		講義・演習	アンキロサウルス頭骨のベース作製	地下一階の資料管理作業を時間外学習に充当する。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	コンピューター演習Ⅶ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	(株)ブレインスタッフ コンサル タンツ
学科・コース	動物園・水族館&テクノロジー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園グループの一企業である(株)ブレインスタッフコンサルタンツのインストラクターが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて特化した講義を実施。						
授業の学習 内容	・個人でプレゼンテーションの題材を決めて、インターネットや論文をもとに情報をまとめる ・聴衆者に伝わるプレゼンテーション資料を作成して発表する						
到達目標	【前期後半】自ら決めた題材について正しく調べ、聴衆者にわかりやすいスライドにまとめ発表することができる 【前期後半】各自で専門分野において疑問点を見つけ、仮説、検証をとおして自らの考えをまとめ、聴衆者に伝わるプレゼンテーションができる						
評価方法と基準	評価は通常点(40点)と制作物と発表点(60点)の合計100点満点でおこない、学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/17	演習	<テーマ1> 題材の決定、調査	発表に向けて調査を進め、 プレゼン資料を完成させる 講義日程は、 2024年3月29日時点の内容のため、 今後変更の可能性があります 授業内のアナウンスをご確認下さい
2	4/24	演習	<テーマ1> 調査、資料作成	
3	5/8	演習	<テーマ1> 調査、資料作成	
4	5/15	演習	<テーマ1> 調査、資料作成	
5	5/22	演習	<テーマ1> 調査、資料作成	
6	6/5	演習	<テーマ1> 調査、資料作成	
7	6/12	演習	<テーマ1> 発表	
8	6/19	演習	<テーマ1> 発表振り返り	
9	6/26	演習	<テーマ2> 題材の決定、調査	
10	7/3	演習	<テーマ2> 調査、資料作成	
11	7/10	演習	<テーマ2> 調査、資料作成	
12	7/17	演習	<テーマ2> 調査、資料作成	
13	8/28	演習	<テーマ2> 調査、資料作成	
14	9/4	演習	<テーマ2> 発表	
15	9/11	演習	<テーマ2> 発表振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶学園グループの学生にとって必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。				

科目名	コンピューター演習Ⅷ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	(株)ブレ ンスタッフ コンサル タンツ
学科・コース	動物園・水族館＆テクノロジー専攻	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	滋慶学園グループの一企業である(株)ブレンスタッフコンサルタンツのインストラクターが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて特化した講義を実施。						
授業の学習 内容	・チームでビジネスを視点としたテーマを設定し利益を生む仕組みを考え、調べ、まとめる ・訴求力のあるプレゼンテーション資料を作成して発表する						
到達目標	【後期前半】チームでビジネスを視点としたテーマを設定し、利益を生む仕組みを考え、聴衆者にわかりやすいスライドにまとめ発表することができる 【後期後半】後期前半でまとめた内容をブラッシュアップし、訴求力のあるスライドに完成する						
評価方法と基準	評価は通常点(40点)と制作物と発表点(60点)の合計100点満点でおこない、学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	<テーマ3> 題材の決定、調査	発表に向けて調査を進め、 プレゼン資料を完成させる
2		演習	<テーマ3> 調査、資料作成	
3		演習	<テーマ3> 調査、資料作成	
4		演習	<テーマ3> 調査、資料作成	
5		演習	<テーマ3> 調査、資料作成	
6		演習	<テーマ3> 調査、資料作成	
7		演習	<テーマ3> 発表	
8		演習	<テーマ3> 発表振り返り	
9		演習	<テーマ4> 調査、資料作成	
10		演習	<テーマ4> 調査、資料作成	
11		演習	<テーマ4> 調査、資料作成	
12		演習	<テーマ4> 調査、資料作成	
13		演習	<テーマ4> 調査、資料作成	
14		演習	<テーマ4> 発表	
15		演習	<テーマ4> 発表振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶学園グループの学生にとって必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。				